

武蔵野大学留学生向けの防災情報リーフレットの作成 —市民の防災力向上に向けて その38—

正会員 ○ 渡壁由樹子*1
正会員 伊村 則子*2

防災 地震 留学生
情報 知識 ヒアリング調査

§1 はじめに

東京都の各自治体の窓口配布の防災情報の分析を行った上で、留学生一人一人により多くの防災に関する知識をもってもらうため、武蔵野大学留学生向け防災情報リーフレットを作成する。

§2 武蔵野大学留学生向け防災情報リーフレットの作成

2.1 リーフレットの作成

前報で決定した掲載項目をもとに、実際に武蔵野大学留学生向け防災情報リーフレットを作成した。再び建築を学ぶ留学生2名に作成したリーフレットを見せ、意見を聞いた。結果「室内にいた場合と室外にいた場合では避難の方法が違うのでその違いを載せると良い」との指摘を得て、シチュエーションごとに分けて避難方法を表記することにした。他にもイラストを修正する等ヒアリング調査①の結果を参考に補足・削除を行い、図1や図2のようなリーフレットを作成した。



図1 リーフレット(表紙)



図2 リーフレット(2頁)

2.2 ヒアリング調査

作成したリーフレットを、建築を専攻としない留学生にとっても理解できるのか、どのような情報を必要としているか、日本での防災に関する経験を含め調査するため、さらに他の本学留学生15名を対象にヒアリング調査②を実施した。対象者は、図3に示すように本学2年生～大学院1年生の学生で、中国・台湾・韓国からの留学生である。主な調査内容は、作成した防災情報リーフレットに関するコメントや掲載して欲しい項目、自身の防災訓練や防災教育の経験について等である。

調査の結果、まずリーフレットに掲載する項目については、前報表2の項目についてリーフレットに掲載した

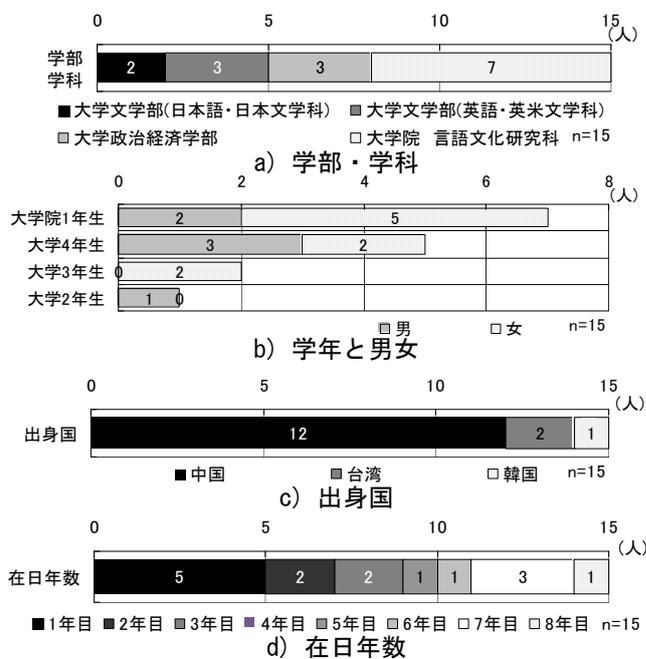


図3 調査対象者の属性

方がよいと思う項目、または自分が必要と感じる項目を回答してもらった。その結果が表1a)b)であり、記載すべきと回答した人数の多い順にまとめた。表1をみると、全員が掲載した方が良いと答えた項目は、「時間経過ごとのシミュレーション」「避難(いつ?どこへ?どのようにな?)」「災害用伝言ダイヤル(171)」であることがわかる。また、表1c)の作成したリーフレット記載項目をみると、記載すべきと答えた人数が多い項目に集中しており、重要な項目であることが確認できた。表1a)の項目一覧以外にも、本学の連絡先や学内滞時に避難する場所等、本学特有の情報も記載した方が良いと答えた人が多数いた。次に、実際に作成したリーフレットを見てもらい、文章やイラストの情報量が適度であるかなどを調査した。図4に示すように「文章が多い」と答えた人が2名、「イラストが多い」と答えた人が1名であった。他の12名は、「文章とイラスト共にちょうどよい」と回答し、多くの留学生が「バランスも良く充実している」と回答した。



図4 作成したリーフレットについて

表1 リーフレット掲載項目について

| a)市民に向けて提供している防災情報項目 | b)記載すべきと答えた人数(Max15) | c)作成したリーフレット記載項目 |
|----------------------|----------------------|------------------|
| 時間経過ごとのシミュレーション | 15 | ★ |
| 避難(いつ?どこへ?どのように?) | 15 | ★ |
| 災害用伝言ダイヤル「171」 | 15 | ★ |
| 地震が起きたら(わが家) | 14 | ★ |
| 地震が起きたら(外出時) | 14 | ★ |
| 安全対策(転倒防止・ガラス飛散防止など) | 14 | ★ |
| 地震の基礎知識(メカニズムなど) | 14 | ★ |
| 火の始末(消火器の使い方) | 13 | |
| 避難所一覧 | 13 | |
| 非常持ち出し品の準備 | 13 | ★ |
| 暮らしの備え(3日分の備え) | 13 | ★ |
| 防災関係機関一覧 | 13 | ★ |
| 消防・警察へのダイヤル | 13 | ★ |
| 緊急地震速報 | 12 | ★ |
| 火事を出さない(防火) | 12 | |
| エレベーターの使用 | 12 | ★ |
| 地震の危険度(階級など) | 12 | ★ |
| 避難所について | 11 | |
| 住宅用火災報知器 | 11 | |
| 防災訓練のお知らせ | 11 | ★ |
| 浸水対策・浸水時の行動 | 11 | |
| 携帯電話災害伝言版 | 11 | ★ |
| 防災対策(管理組合も含む) | 10 | |
| 帰宅困難者対策 | 10 | |
| 風水害の基礎知識 | 10 | |
| 防災マップ | 10 | |
| 応急手当て | 9 | |
| 地震時に予想される事態(大混乱) | 9 | |
| 事業所の備え | 8 | |
| 被災したときの支援 | 8 | |
| AEDとは | 7 | |
| AEDの使い方 | 7 | |
| 共助(近隣・要援護者への)手助け | 7 | |
| 防災拠点について | 7 | |
| AED設置施設マップ | 6 | |
| 共助(防災市民組織・消防団など) | 6 | |
| 「自助」「共助」「公助」の意識 | 6 | |
| 地震発生時の行動(管理組合) | 6 | |
| 自分が職場で備えておくもの | 6 | |
| 豪雨に備えておくこと | 6 | |
| 地震ハザードマップ(地域危険度) | 6 | |
| 防災カード(書込み型のもの)の付録 | 6 | ★ |
| 防災に関するホームページの紹介 | 6 | |
| ライフラインについて | 5 | |
| 防災用品のあつせん | 5 | |
| 被災生活(家庭―近所―管理組合) | 5 | |
| 地域の連携(相互支援協定など) | 5 | |
| 相談窓口、関係機関の連絡先 | 5 | |
| 浸水深の見方 | 5 | |
| 洪水ハザードマップ | 4 | |
| 要援護者別の援護のポイント | 4 | |
| 地震の心得10か条 | 3 | |
| 東海地震について | 3 | |
| 警戒宣言 | 2 | |
| 地震等災害軽減制度の紹介 | 2 | |
| 地域の被害想定 | 2 | |
| 家族の防災会議を開く | 1 | |
| ペットのための備え | 1 | ★ |

※★:作成したリーフレットに記載した項目

次に、留学生の防災訓練や防災教育の経験についてたずねたところ、図5のように「日本で防災訓練や防災教育を受けたことがあるか」という質問に「受けたことがある」と答えた人は7名であり、約半数の人が日本の防災訓練や防災教育を経験していた。その多くは日本語学校や本学授業の一環で防災館へ行ったことがあると回答し、「地震発生時の行動」や「火災の対応」等の知識を身につけていた。また図6に示すように、「母国で防災訓練や防災教育を受けたことがあるか」については「受けたことがある」が7名であり、約半数の人が母国の防災訓練や防災教育を経験し、その多くは図7に示す「母国に地震がある」と回答した人だった。さらに「母国で防災訓練や防



図5 日本の防災訓練や防災教育の経験について

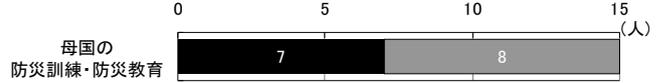


図6 母国の防災訓練や防災教育の経験について

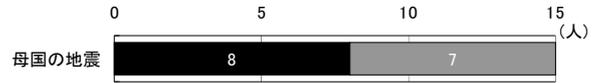


図7 母国の地震の有無

災教育を受けたことがない」と答えた人の多くは「母国に地震がない」と回答しており、「日本の防災館に行った際、いかに地震が恐ろしいかよく理解した」「防災を重視していることにびっくりした」と答えている。

また、図8のように「自分の国の大使館の連絡先を知っているか」という質問に対し「知っている」と答えたのは、わずか1名であった。いざという時に役立つ情報であるので、リーフレットに記載すべき項目と考える。



図8 大使館連絡先について

2.3 リーフレットの改訂

ヒアリング調査②の結果を参考に、図9・図10の「○」の部分に補足・変更し、防災情報リーフレットを改訂した。図9の「安否情報・連絡先」では、要望が多かった大学の連絡先を新たに追加した。図10の地震が起きた時の行動と事前対策では、「防災会議を開く」という項目で、家族に限らず一緒に住んでいる友達ともおこなうよう表記を変更した。



図9 リーフレット(6頁)

図10 リーフレット(裏面)

§3 まとめ

武蔵野大学留学生を対象に防災情報リーフレットを作成した。今後はこれを読んでもらうことによって、一人一人がより多くの防災に関する知識をもち、発災時には素早く行動できるように活用して欲しいと考えている。また、早い段階で地震の知識を知ってもらうため、大学生だけでなく日本語学校に通う学生等にも防災情報を提供することが課題である。

*1 パナソニック電工ホームエンジニアリング株式会社
*2 武蔵野大学環境学科 准教授・博士(学術)

*1 Panasonic electrical engineering home engineering Ltd.
*2 Associate Prof., Dept. of Environmental Sciences, Musashino Univ., Ph. D